

介護保険外サービスの開発

—介護予防と生活支援—

デイサービスセンター筆の都

○山根久仁、玉村和子、堀内典子、平谷祐子、
高村千恵、内田百合子、梶川由美、松岡治

大瀬戸内科 大瀬戸隆

【はじめに】

国は、団塊の世代が75歳以上となる2025年を目処に、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現することとしている。このシステムは高齢化の進展や地域資源など地域差がある中、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じた活動（ケア）をつくることが重要であり、「地域の力」が問われているといえる。

当事業所のある熊野町では、地域づくりによる介護予防として、シルバーリハビリ体操を推進しており、この活動は主に「非閉じこもりの高齢者」を対象とした予防対策でより活動的な生活の支援である。一次予防として成果を上げており、今後もさらに充実すると思われる。

そこで当事業所としては、二次予防となる「閉じこもり傾向にある高齢者」や「閉じこもりになるリスクの高い高齢者」等を対象とする「集いの場による地域づくり」を目指し、介護保険サービス外である「いきいき広場 絆」を立ち上げ、1年8か月活動してきた。その経過を報告する。

【いきいき広場「絆」の目的】

- 1、閉じこもり・孤独・孤立の解消
- 2、それぞれの役割がある
- 3、楽しみや生活のハリになる
- 4、ストレス解消

【対象者】

おおむね65歳以上で介護保険の対象にならない方

→のちに自宅入浴困難者、要支援の方も対象者へ加入

【開所日時】

第1・第3日曜日 10時～15時

【内容】

入浴、食事、体操など、送迎付

【参加料】

500 円 食事代 500 円

【まとめ】

私たちは、介護保険サービスの提供で培ったノウハウや保有している人材・設備などを積極的に活用することで、介護保険サービスから零れ落ちた高齢者の方幸せにできる力を持ち、地域の資源となるやりがいやプライドを持つことができた。

できないことをカバーし支えるということと、人と交わり、喜び・楽しみ・やりがい・生活意欲をいかにひき出していくか、という点において、人の中にいるということがとても大切である。

今後も地域の課題に沿った社会資源となれる活動をしていくことが、自分自身の人生にも繋がっていくと思っている。